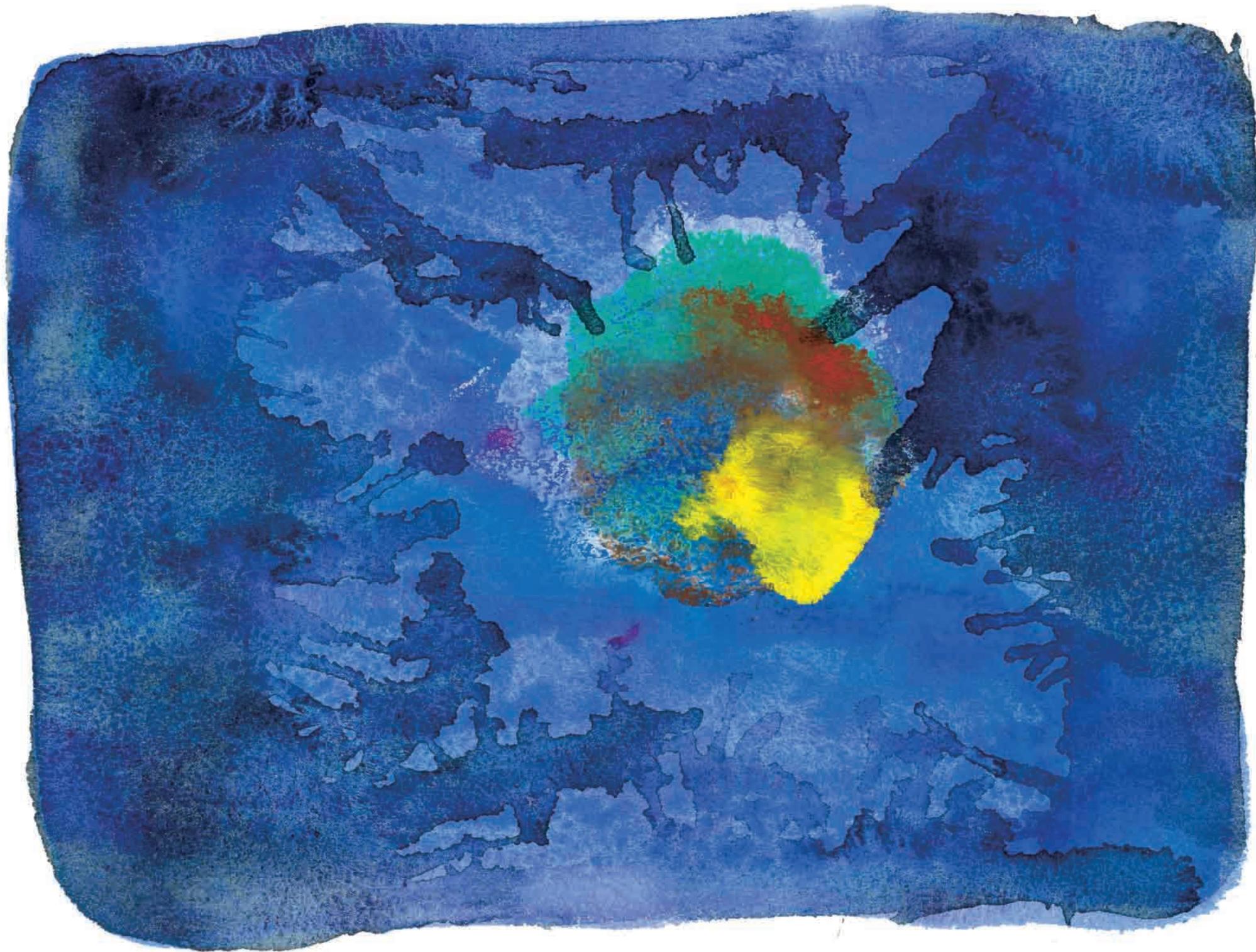


きせきのいのち

The life of miracle

作・絵
志方
みさと
翻訳
室伏
むろふし
弥公
まや
摩耶

Story/Picture Misato Shikata
Translation Maya Murofushi



あなたは狭いトンネルをくぐって出てきた尊きいのちの一つです。
そのいのちは生まれるべくして生まれ、この大地に足をつけるように下ろされたのです。

You are one of the precious life that passed through narrow tunnel.
And that life was supposedly conveyed to stand onto this earth.





ヒト
人間であるあなたは言うでしょう。

「わたしは何のために生まれてきたのでしょうか」

今はそう思わなくとも、大きくなっていくうちに感じるでしょう。

何のために生まれてきたのでしょうか？

And you human might ask:

"For what reason I came into life?"

Although you do not think that at the moment, you will feel so when you grow up.

So why did you come into life?

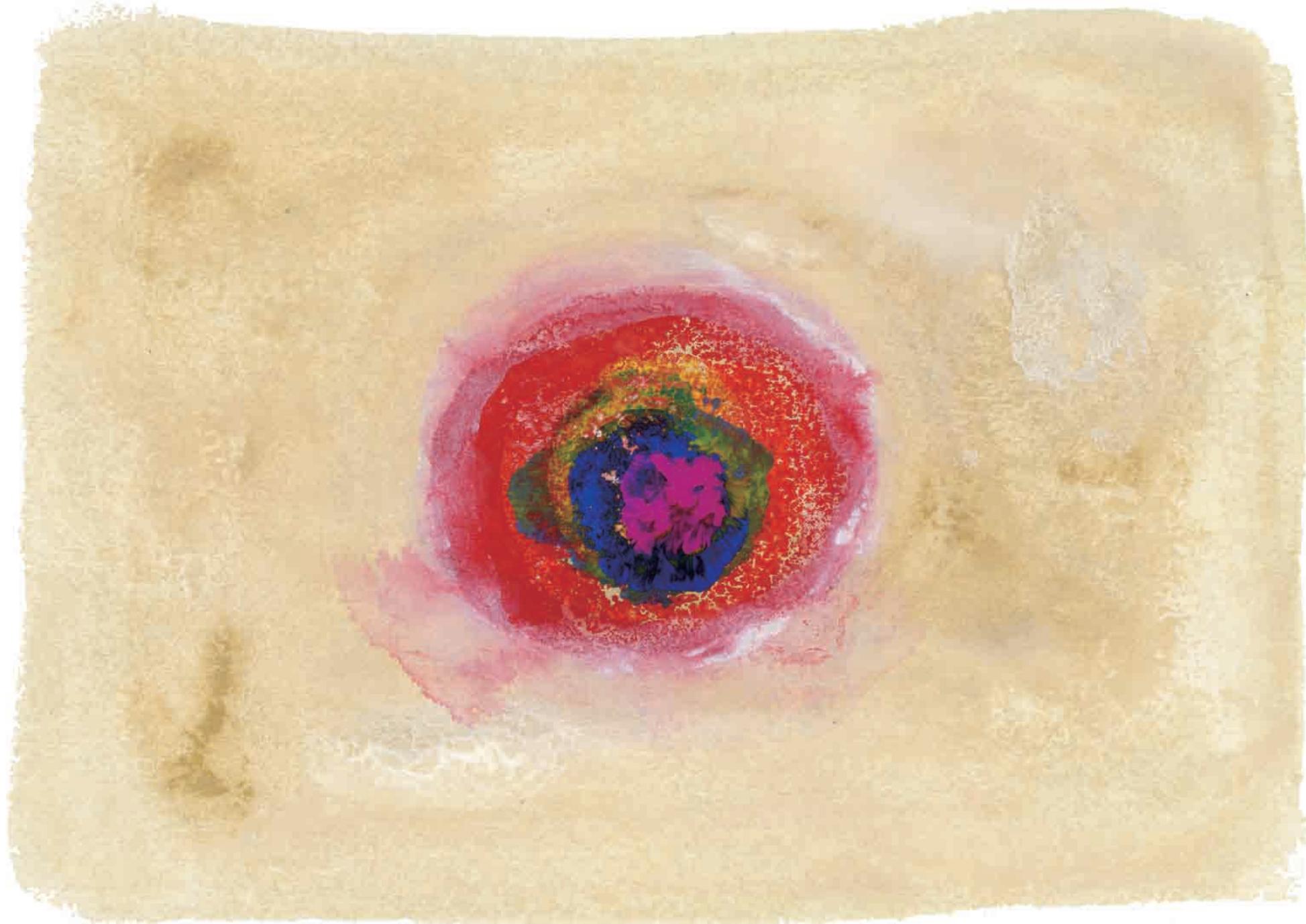




理由はありません。
ただこの大地に生まれてきた——それだけなのです。
誰であっても、たたえられるべきいのちの一つです。
どうして理由なんてないのでしょうか？
花や草は、誰のために生えているのでしょうか？
虫や動物たちは、誰のためにそこに在るのでしょうか？
誰かに求められて、この地球が宇宙の中に存在しようと決めたのでしょうか？
ただそこに在って、それぞれのいのちを育んでいるだけなのです。

There is no reason for that.
You were simply born onto this earth, indeed.
Whoever you are, you are the life which to be extolled.
Why is there no reason?
For whom flowers and grasses spring up?
For whom bugs and animals exist there?
Did this earth decide to exist into this Universe because somebody asked to?
No, they simply exist there, and nurture each of their life.





そこに理由はありません。

いのちはいのち。

それだけです。

あなたは^{あまた}数多の偶然が重なって、生まれてきた奇跡のいのちです。

And there is no reason for that.

Life is living.

And that is all.

You are the life of miracle that came out from the layer of uncountable coincidences.



初めて、志方 弥公と申します。この絵本を手に取ってくださりありがとうございます。

わたしが一番伝えたい言葉を、絵本にして作りました。

最近、「命」というテーマで考える機会が、学校の道徳の授業以外にぐっと減ったように思います。

3世代、4世代同居が当たり前だった頃は「死」というものが身近にありました。そうすると自然に「生」と「死」を考えるようになり、「命」そのものを大事にするようになります。

それだけでなく、本来であれば一步外に出ればありとあらゆる「命」を見つけられます。都会の中に生えている雑草、大空うつむを飛んでいる鳥など。

しかし、最近はこうした美しいものよりも、俯き手元の小さな画面に食らいつくように見続け、周囲が全く見えない状態に陥っている人の多いこと。

下ばかり見ていると視野が狭くなり見える世界も自ずと狭くなります。そして段々と小さな世界に閉じ籠もり、その限られた世界で起きた出来事だけがすべてだと捉えるようになります。

本当は、世界はずつと広いのに——それを見る前に未来に絶望し、自殺してしまうことが悲しいのです。

本人からすると、自分が見ている世界が”絶対”であり、すべてです。学校なら学校がすべてであり、そこに上下関係さえも存在してしまいます。その中でしくじり、孤立してしまったら、その世界での自分は「終わってしまった」のであり、やがて「崩壊」し自ら「命」を絶ってしまうのです……。

それではあまりにも悲しすぎます。もっと、自分の「命」が大事なものであり、かけがえの無いものだと分かっていれば、思い悩んだとしても「逃げる」ことで、解決できたりするものなのです。

けれど、根本的な「自尊心」があまりにも低いと、命さえ簡単に投げ出してしまうのです。

「自尊心」は高すぎても、低すぎてもいけません。「自尊心」のバランスが取れてはじめて、心身共に健康的な人となるのです。

ところが、どうやれば「自尊心」のバランスが取れるのか誰にも分かりません。答えなどないからです。

それゆえ、学校で教えてくれることも、家庭で教えられることもありません。結局、自分自身で学び取るしかないのでしょう。

わたしもまた、小さい頃から感情を思うように出せない子供でした。耳が聞こえないため言葉を学ぶ機会が少なすぎた、というのもあるのですが、感情を出すのはまた別です。↗

↘自分の欲求を満たすために泣けばいいのですから。

でもそれすらもできなかったように思います。親を困らせたくなかったというのもありますし、自分の感情の処理が下手だったからです。

自分の感情の出しどころが見つからず、内へ内へと溜まり、精神世界では悲鳴をあげていたように思います。そんな時に現れててくれたのが、空想の友達、「コットン」でした。

団体が大きく、ふわふわとした感触。肌触りはタオル生地でした。お日様のような温もりと懐かしい匂い。

いつもずっと一緒にいるわけではなく、とんでもなく辛い時にしか現れてくれません。

わたしは、コットンにいろいろ言いました。きついことも、情けないことも。そうやって自分の感情をコットンにたくさんぶつけました。

けれど、コットンは言い返すこともなく、ただただわたしを抱き締めてくれました。そしてコットンはわたしに感謝してくれました。

——わたしを生んでくれてありがとう。君のおかげでわたしは生きている。

そこからでした。わたしが生まれてきたことが、ただただ奇跡であることに気付いたのは。そしてすべてにおいて感謝しなければいけないことをコットンから学んだのです。

それから少しずつわたしは立ち直り、20代に入るころには、コットンを忘れるぐらい自尊心のバランスが取れるようになりました。

しかし、26歳の時に再び激しく動搖するほど、大きな壁にぶち当たりました。

命は限りがあること、そして、最期の日がいつ訪れるかわからない、と気づいた時、わたしにできることはないだろうかと模索し、行きついたのがコットンです。このとき初めてコットンを、わたしの手で精神世界から現実世界に引っ張り出したのです。

そこからあっという間にコットンは現実世界で飛び回るようになりました。そしてわたし以外の人に愛されるようになり、今もコットンは誰かを癒やし続けています。

コットンのおかげで、わたしは自尊心のバランスの取り方を覚えたように思います。

自尊心のバランスを取りながら、しっかりと地に足をつけて生きていくために、わたしは命の奇跡をわたしなりの言葉で伝えていきたいと考えてこの絵本を作りました。↗

↖

——「いのち」そのものには意味はない。ただただ奇跡であり、尊いものである。

この言葉の意味をしっかりと自分の頭で考え抜いてもらいたいのです。

わたしを例に挙げ、もし「命」に意味付けをしたとすれば、どうしてわたしは耳が聞こえない状態で生まれたのでしょうか？

そこに意味があるとしたら、神様がわたしに与えた試練なのでしょうか？

その試練なら、わたしは要りません。わたしだって耳が聞こえていたらもっと幸せだったかもしれない。そう考えます。

そういう意味付けなら、いっそのこと生まれ変わって、今度は障害のない身体で生まれてきたい——そう考えます。

こんなふうに、「命」そのものに意味を付けようすると、苦しくなります。だって、自分が決めたことじゃないから。

確かに、「自分の人生そのもの」には意味があります。不幸な家庭環境で育ったとしても、自力で幸せになれたら「意味がある人生だった」といえます。↗

↖ 「意味のある人生」は、自分の力で作っていけるからです。

親に祝福されず生まれてきてしまった子。障害や病を抱えて生まれてきた子。色んな「命」があります。

そんな苦しんでいる人を見つけたら、わたしは真っ先に言うでしょう。

——大丈夫。あなたはとても尊いたった一つだけの命であり、ここに生きているだけで奇跡なのだから。

そして、ご縁があってあなたと出会えた喜びをありったけ伝えたい！ 小さな子供だったら、抱き締めてあげたい！ そう思います。

わたしは最後の最後まで、この言葉を伝え続けていこうと思います。

しかた みさと
志方 弥公

2015年7月13日



■コットン（白）■

志方弥公が小さい頃からのお友達で、架空の生き物。

一見シロクマに見えるが、シロクマでもイヌでもいいらしい。

住んでいる場所：川の近く

趣味：旅、色々な人と喋ること

性別：なし

必要な時にしか現れてくれず、ちょっとそ分けない一面が。

話し言葉もちょっとそ分けない。



■コットン（黒）■

コットンの影で、とても優しい。

コットンが光の象徴なら、黒コットンは闇の象徴。

住んでいる場所：コットンの真裏の世界

趣味：旅人をもてなすこと

性別：なし

最後の場所で待ち続け、優しい眼差しで見送る。

コットンよりも優しいかもしれない。



■ 志方 弥公 ■

本名：藤田 奈保子（ふじた なおこ）

1981年5月生まれ 双子座 兵庫県西宮市在住
先天的聴覚障害を持っている。

■趣味：ゴルフ、仏像鑑賞、佛教哲学、神社巡り

■好きな色：青緑色

■活動歴：

【2015年】

5月 渋谷の東急百貨店東横店の2-3階階段踊り場壁画担当

11月 西宮市甲子園Cafe「ココカラ∞」志方弥公個展

12月 八王子市夕やけ小やけふれあいの里主催 志方弥公展

「目で聴くテレビ」志方弥公特集番組 CS放送・京都テレビ放送

【2016年】

1月 「目で聴くテレビ」志方弥公特集番組 テレビ神奈川放送

■受賞歴：

2015年2月 スペイン・バルセロナ国際サロン 銀賞

2015年2月 Shiu「Paralym Art」CDジャケットデザインコンペ 受賞



東京・渋谷壁画

"The cultural amalgam of Shibuya" (渋谷の文化的な混合)



スペイン・バルセロナ国際サロン 銀賞

"ミクロコスモス"



志方 弥公 公式サイト
<http://cotton-story.com/misatoshikata/>
コットン動画やデジタル絵本もあります。



志方 弥公 FB ページ
<https://www.facebook.com/misatos.art>
新作情報などを掲載しております。
個展などのお知らせもしております。



お問い合わせメールアドレス
info@cotton-story.com
お気軽にお問い合わせください！
絵本が必要な方はお送りいたします。
公式サイトのメールフォームからも
お問い合わせ頂けます。

きせきのいのち

2014年3月10日 初版発行

2015年7月25日 2版発行

2016年1月20日 3版発行

著者 —— 志方弥公

発行者 —— 志方弥公

発行所 —— M.I.S.

<http://cotton-story.com/misatoshikata/>